

2021.02 Monthly Report



写真1 / 桜に青銅色の屋根瓦が似合う富山城

日本の都市（城下町）はお城を核に独自のたたずまいを形成 あえて不便さを追求したからこそ暮らしやすいのが城下町

～日本の街に落ち着きをもたらすお城効果!?!～

☆都市の要としてしっかり生きる現代のお城

今月のまんすりーレポートは、現代都市のなかにあっても絶大な存在感を放つ《城郭＝お城》をプチ特集したいと思います。世にお城ファンはたくさんいますが、ドローンの視点で上空から鳥瞰すると、お城というのはまさに都市のランドマーク。数百年前に築城されたお城は現代においても、都市の動線の核を担っていることがわかります。

戦国時代に建てられたお城は、徳川幕府が成立した後にはずいぶん淘汰されました。徳川幕府に楯突く勢力に利用されそうな剣呑な城は、とくに完膚なきまでに破壊されました。さらに明治維新を迎え、廃藩置県が実行されると、旧藩の象徴だったお城の大部分が廃城の憂き目を見ることになりました。



写真2 / 街が城（松江城）とともに呼吸する古都・松江

廃城後の敷地にはかつての城郭がそのまま残されている場合もあれば、城址だけが残っているケースも少なくありません。日本には戦国時代から江戸時代にかけて約2万5000以上のお城が建てられたそうですが、現在、きちんとした形を残して見学可能なお城の数は約200城。さらに建設当時の天守が遺されているお城は全国に12城しかありません。今回ご紹介するお城のなかでは松江城のみが、昔の天守を維持しています。

他のお城は中身が現代建築そのままであったり、一部を鉄筋コンクリート造りにしたハイブリッド型も少なくありません。歴史好きの人々はえてして、昔のままの姿かたちを残しているお城を賛美するあまり、鉄筋コンクリート製のお城やハイブリッド型のお城を軽視しがちです。

それはそれで気持ちが分からないでもありませんが、冒頭に述べた都市のランドマークとしてのお城は城跡だけでも成立しますし、鉄筋コンクリート製でもかまわないのです。要はその周辺も含めた空間が、お城の立地する都市の営みに関し、いろいろな意味で《核》の役割を果たしていること、それが現代に生きるお城の大事な役割だと思ふのです。

☆街は人と城でもつ!?! お城巡りの恍惚

まず写真1は富山県富山市に立地する富山城です。神通川の流れをそのまま生かしたような造りから「浮